

## 平成16年度実績評価 事務事業進行管理表

事務事業名	竹田人形収蔵庫建設事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習課	内線	3570	1	10	5	1	12	
政策体系上の位置付け	政策	歴史風土を活かした文化のまちづくり				関連計画、条例等	竹田扇之助記念国際系操り人形館設置条例・同施行規則				
	施策	特色ある地域文化の振興									
基本事業											
事業区分	政策的事業	新規、継続区分	継続								
事業期間	16年度	～	16年度	環境調整会議の必要性	なし						

## 【D0】(1)この事務事業は、次の目的を達成することを旨とします。

目的の記述	対象 (人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値 (実績・現状)			
	竹田人形、竹田人形大道具、小道具、海外から寄贈された人形、人形劇関係資料を正確に把握すると共に保管管理を良くする。	保存されている人形の体数(点)	当初(15)		17年度	
16年度			2600			
書籍等資料(点)		当初(15)		17年度		
		16年度	1000			
意図 (成果は何か、対象をどうかえるか)		成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値 (実績・目標)			
竹田扇之助氏は高齢であり、竹田人形の詳細な内容を把握しておくことが急務である。そのため保存の方法も現状の箱詰めではなく、頭と胴体を一体とした形で保存する。将来的には誰が後継者になっても、きちんとした展示を行って、後世に伝えられるものにしていく。		展示可能となった資料等の数(点)	当初実績(15)		最終目標	
	16目標		5000	16実績		
	17目標					
	当初実績(15)		最終目標			
	16目標		16実績			
	17目標					

## (2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
		現在の竹田人形収蔵庫は、旧座光寺郷土資料館の建物で、空調設備や防虫など、人形や資料を保存する施設としてはあまりに劣悪な環境であるため、竹田扇之助館長と協議の結果、現施設を改装して、人形や資料の保存に万全を期すこととなった。	改修工事を完了	収蔵される人形のかしら(点)
			収蔵庫ののべ床面積(m <sup>2</sup> )	108

<金額の単位:千円>		16予算額	16決算額	17予算額
事業費	特定国庫支出金			
	特定県支出金			
	起債			
	その他			
	一般財源	14,910	14,910	
事業費計(A)		14,910	14,910	0
人件費	正規職員所要時間			
	臨時職員等所要時間			
	人件費計(B)	0	0	0
トータルコスト A+B		14,910	14,910	0

特定財源内訳

## (3)この事業目的の達成は、次の上位(政策や基本事業)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 (この事務事業の上位目的)	上位成果指標(例:施策の成果指標)と単位	上位成果指標の数値				
	人形や資料の保存をきちんと行い、展示の充実を図ることによって、鑑賞者に質の高い展示を提供する。資料関係も内容の整理を行い、調査・研究の要請に応えられるものにする。「人形劇のまち、飯田」から発信される質の高い情報として日本はもとより、海外からも高く評価される施設と内容を誇るようになる	人形や資料の保存をきちんと行い、展示の充実を図ることによって、鑑賞者に質の高い展示を提供する。資料関係も内容の整理を行い、調査・研究の要請に応えられるものにする。「人形劇のまち、飯田」から発信される質の高い情報として日本はもとより、海外からも高く評価される施設と内容を誇るようになる	入館者数(人)	16目標	2450	16実績	2425
17目標							
				16目標		16実績	
				17目標			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
竹田人形館の建設と竹田人形の飯田市寄贈にあたって、飯田市と竹田扇之助氏との間で取り交わされた覚書の中で、「できるだけ近い将来に収蔵庫を建設する」という一項があり、飯田市としてはその約束を執行する義務を負っている。 また、現状の収蔵では人形や資料の汚損、劣化の危険があり、なんらかの形で収蔵環境を改善する必要に迫られている。さらには、収蔵人形や資料の整理事業もできるだけ早い機会に実施しなければならない。	竹田氏は高齢(73歳)のため、人形や資料の整理と、保存の仕方は非常に重要であり、且つ緊急を要することである。竹田氏と文化会館の協議の中で現在の施設の改装を含めた方法が具体的に検討されており、できるだけ早く方向を決めて施行を進めたい。収蔵物の遺漏なき管理のためにも、内部調査と資料の整理、そして所蔵庫の整理は早いほどいい。	竹田人形を支える市民の会が座光寺地区にあり、竹田糸あやつりの勉強を行っている。このまま竹田人形を絶やさないよう、人形づくりから操作までを学んでいる。その人たちも竹田人形館の活性化の一助を担う存在として活動をしているだけでなく、将来的には竹田人形を再度自分たちの手で動かし、多くの人に竹田人形館に訪れてもらうことを願っている。そのために収蔵庫を是非整理してもらいたいと思っている。

## 【 See (16年度の事業評価) 】

目的 妥当性 評価	意図の達成が、結果に結びつくか	(評価) 結びつく (その理由)	成果(達成度)を向上させる余地はあるか?	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由)		有効性評価
意図の見直しの必要性は?	(評価) 必要性がない (その理由)	類似事業の有無と統合の可能性(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)	
市が関与する必要性は?	(評価) 必要ある (その理由)	効率性評価	(評価) 不可能 (その理由)	
		公平性評価	(評価) 妥当である (その理由)	

竹田人形および関連資料を適切に保存し、展示公開することによって、「人形劇のまち、飯田」としての評価を高め、情報発信ができる。

人形のかしらと関連資料の収蔵が目的であり、見直しの必要性はない。

人形のかしらと関連資料の収蔵が目的であり、見直しの必要性はない。

「竹田扇之助記念国際系操り人形館」は市条例に基づく施設であり、その施設に関わる資料の収蔵庫建設であり、市が関与する必要がある。

企画展示を行い、有効な情報発信をすることで、入館者数を増加させる。

事業はH16年度で終了している。

収蔵庫としての機能が果たされなければ意味がなく、削減は困難である。

収蔵庫に収蔵される資料は人形館で展示公開されるものであり、収蔵庫と人形館は一体のものである。こうしたことから、広義での受益者は人形館への来館者であり、見学に際しては入館料を徴収している。

## 【 Plan(改革改善案) 】

今後の事業の方向性	事業の方向性の具体化 (何を、いつまでにどうするか改革改善案)	改革改善案実施の課題と克服方法
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	時期(年度) <input type="text" value="16"/>	